

避難民社宅で受け入れ

ウクライナ

ロシアの軍事侵攻を受けてウクライナを脱出した母娘2人が今月、大仙市入りする。身元引受人として準備を進めるのは、住宅設備管理などを手掛ける佐々木興業(大仙市)の佐々木正光社長(71)。社宅用の住宅を提供し、最終的には15人程度を受け入れる予定。秋田県によると、県内でウクライナ避難民を招き入れるのは初となる。

大仙・佐々木さん

母娘、月内に入居

きっかけは、ロシアが軍事侵攻した直後の2月末、佐々木さんが所属する日本ウクライナ・モルドバ友好協会の知人から打診を受けたことだった。

佐々木さんは20代の頃からソマリアにコメを送るなど国際協力活動をしてき

きつかけは、ロシアが軍事が決まっております、最終的に15人程度の女性が社宅に入る。

ウクライナ語に対応するため、携帯翻訳機5台を購入した。秋田市内でタクシーの運転手をしているウクライナ人のナターリア・サンガルさん(45)と連絡

た。1990年代以降は、チェルノブイリ原発事故による被爆者支援を長く続けるなどウクライナと関わりがあった。

軍事侵攻で多くのウクライナ国民が犠牲となり、避難を余儀なくされている現状に「自分でできることをやろう」と受け入れを決意。知人らと情報共有しながら準備を進めてきた。

今回、社宅に入るのは母親(41)と女兒(12)。2人は今月中に来日し、大仙市に移動して入居する予定。来月には65歳の女性の受け入

を取り、通訳として協力してもらおう約束も取り付けた。

佐々木さんは「まずは平穏な生活を送ってほしい。いずれは日本語を習得して自立していただけるように協力していきたい」と話す。

渡航費、生活費を支援する。運営する同市の川口温泉「奥羽山荘」に募金箱を設置したほか、売店で取り扱っているモルドバ産ワインなどの売り上げの一部を寄付に充てる。連絡先は

佐々木興業0187(75)2626。

ランチ売り上げ一部寄付

弘前のシェフメニュー考案



ウクライナ風ランチを考案した山崎さん

フランス料理を提供する「レストラン山崎」(弘前市)のオーナーシェフ山崎隆さん(69)は、全ての料理にウクライナの要素を取り入れたランチを考案、売り上げた25%をウクライナ避難民への支援金に充てる取り組みを始めた。1食1980円で、隣接の「カフェ山崎」で提供する。

メインは「チキン・キウ(キエフ)風」。スープはウクライナ風ポルシチで、ライ麦パンも添える。アップルパイの生地は「から考え、ウクライナをイメージしたヒマワリオイルを

練り込んだ。国旗の黄色と同じ色のリング「王林」を使うこだわりもあった。連日の報道を見て「料理人として何かできないか」と思案。避難民への食事代を寄付することに決めた。「食事は人を幸せにする」とほほえむ。

山崎さんの父は第2次世界大戦後、旧ソ連に抑留された過去があり、「侵攻は「ずるい」と批判。「ロシアの侵攻は、日本にとつても人ごとじゃない。何もできないと思ってる人も気軽に食べに来てほしい」と話した。



携帯翻訳機を手にウクライナ避難民の受け入れについて話す佐々木さん